

学習指導要領		都立府中高校 学カスタンダード
<p>(1) 世界史へのいざない</p>	<p>ア 自然環境と歴史 歴史の舞台としての自然環境について、河川、海洋、草原、オアシス、森林などから適切な事例を取り上げ、地図や写真などを読み取る活動を通して、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気付かせる。</p> <p>イ 日本列島の中の世界の歴史 日本列島の中に見られる世界との関係や交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な事例を取り上げ、年表や地図などに表す活動を通して、日本の歴史が世界の歴史とつながっていることに気付かせる。</p>	<p>1部1章 世界の一体化と日本の各節 東アジア、南アジア、東南アジア、西アジア、ヨーロッパ、南北アメリカの各節の冒頭部で、各地の自然環境と人類の活動を学び、お互いが密接に関わっていることを理解させる。</p> <p>世界史へのいざないの章</p> <p>1 もたらされた異国の宝物の章で冊封体制と日本について、</p> <p>2 ヨーロッパの地図に記された石見銀山の章で、日本の銀が世界貿易や中国の税制に与えた影響について</p> <p>3 幕末の最新技術と情報の章で、幕末の日本と海外の関わりや文化・技術の流入などについて、学習し、日本が世界の一員であることを理解させる。</p>
<p>(2) 世界史の一体化と日本</p>	<p>ア ユーラシアの諸文明 自然環境、生活、宗教などに着目させながら、東アジア、南アジア、西アジア、ヨーロッパに形成された諸文明の特質とユーラシアの海、陸における交流を概観させる。</p> <p>イ 結び付く世界と近世の日本 大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアの接触と交流、アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制、大西洋世界の展開とアフリカ・アメリカ社会の変容を扱い、16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を把握させる。</p>	<p>1部1章 世界の一体化と日本の各節 各地の宗教や文化などに着目しながら、どのように文明が形成され、相互に交流が行われたのかを理解させる。</p> <p>2章 一体化に向かう世界</p> <p>1節 繁栄するアジア</p> <p>2節 大航海時代と新たな国家の形成 大航海時代を経てヨーロッパが開始した新しい国づくりとアフリカやアジア、アメリカ諸国に与えた影響を学ぶとともに、西アジア、南アジア、中国に形成された大国について、16世紀から18世紀までの世界を日本とのかかわりを俯瞰しながら理解を深めさせる。</p>

学習指導要領		都立府中高校 学カスタンダード
<p>ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 産業革命と資本主義の確立、フランス革命とアメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成を理解させる。</p>	<p>3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺 1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命 2節 自由主義・ナショナリズムの進展 産業革命によって資本主義社会が確立されたこと、国王など旧来の勢力による支配制度が、新たに台頭した市民階級によって制限されていったこと、その結果、自由主義や国民主義が進展し、国民国家が形成されていく過程を理解させる。</p>	
<p>エ アジア諸国の変貌と近代の日本 ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中での日本の動向を扱い、19世紀の世界の一体化と日本の近代化を理解させる。</p>	<p>3節 アジア諸国の動揺 4節 東アジアの大変動 ヨーロッパ諸国の進出によって、アジア諸国が植民地化され、伝統文化や生活様式が破壊されていく様とそれに対する抵抗と挫折を学ばせ、その中で明治維新を実現した日本がどのように近代化を進めていくかを理解させる。</p>	
<p>(3) ア 急変する人類社会 地球社会と日本 科学技術の発達、企業や国家の巨大化、公教育の普及と国民統合、国際的な移民の増加、マスメディアの発達、社会の大衆化と政治や文化の変容などを理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの社会の変化について、人類史的視野から考察させる。</p>	<p>2部 地球社会と日本 1章 現代社会の芽生えと世界大戦 1節 現在につながる社会の形成 19世紀に入って大衆社会が出現するなど社会がどのように変容していったか、交通機関の発達や各国の政策によって移民が増加するなど20世紀前半までの社会の変化について理解を深めさせる。</p>	
<p>イ 世界戦争と平和 帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。</p>	<p>2節 第一次世界大戦がもたらしたもの 3節 民族自決を求めて 4節 経済危機から第二次世界大戦へ 各国が帝国主義政策を取った結果、植民地争奪戦から国際的な対立が深まり第一次世界大戦が起こった後、どのように第2次世界大戦につながったか、アジア・アフリカ諸国はどのように対応したか、日本は世界の中でどのような動きをしたのかなど、19世紀後半から20世紀前半までを学習し、世界の動向と平和について理解させる。</p>	

学習指導要領	都立府中高校 学カスタンダード
<p>ウ 三つの世界と日本の動向 第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立と日本の動向、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。</p> <p>エ 地球社会への歩みと課題 1970年代以降の市場経済のグローバル化、冷戦の終結、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、地球社会への歩みと地球規模で深刻化する課題について考察させる。</p> <p>オ 持続可能な社会への展望 現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	<p>2章 冷戦から地球社会へ 1節 冷たい戦争の時代 戦争終結後、米ソの対立である冷戦が本格化し、日本を含めた世界がどのように変容していったのかを国際関係や核兵器問題、アジア・アフリカ諸国の独立問題などを軸としながら理解させる。</p> <p>2節 冷戦終結の道のり 3節 地球社会への歩み アメリカにおけるベトナム戦争、冷戦の終結、民族紛争や宗教的対立など、当時の国際社会の変化を、経済問題や民族問題を絡めながら理解させ、地球社会の課題について考察させる。</p> <p>4節 持続可能な社会をめざして 事例研究などを通して、①環境保全の取り組み、②人間の権利と自由の保障、③対立から異文化との共生へ、などについて学び、世界の人々が共生していくためには、どのような課題を、どのように解決していくべきかを考察させる。</p>

教科：地理歴史 科目：世界史A

作成様式